

「第 26 回環境教育・環境学習ネットワーク会議」議事録

- 1 日 時：平成30年 7 月19日（木） 15:00～17:00
- 2 場 所：横須賀市消防局庁舎 3 階第 2 会議室
- 3 出席者：高橋弘二座長、桐谷副座長、稲構成員、高橋直人構成員、高橋正明構成員、橋構成員、野崎構成員、堀井真構成員、堀井靖世構成員、吉田構成員、米田構成員（計11名）
- 4 事務局：環境政策部環境企画課（松尾課長、鈴木係長、大場主任、相澤）
- 5 傍聴者：なし

◆ 会議の流れ

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 平成30年度 相互交流を生かした人材育成講座の実施について
 - (2) 環境教育指導者等派遣事業について
- 3 その他
 - (1) 市民協働モデル事業『学区の自然を再発見、小学生向けの環境体験事業』について

議事

◆議題 ①平成 30 年度相互交流を生かした人材育成講座の実施について

[事務局からの説明]

以前の会議で施設見学先として希望があった「港湾空港技術研究所」で講座を行うことについてご意見を伺いたい。

高橋座長

相互交流を生かした人材育成講座は「国立研究開発法人 港湾空港技術研究所」で10月から11月に実施を予定しているとのことだが、希望や意見があったらお願いしたい。

事務局（鈴木係長）

補足事項だが、「港湾空港技術研究所」では毎月第2水曜日の午後2時から4時に施設見学を受け入れている。この会議の趣旨を説明するとともに、市の環境教育に携わっている方の施設見学と説明をお聞きしたいと連絡したところ、必ずしも第2水曜日の2時間ではなく、日程の融通は可能とのことだった。

施設見学先として港湾空港技術研究所で良ければ、事務局で調整していきたい。

高橋座長

日にちの指定がなければ、事務局に一任することによろしいか。

[異議なし]

では、日程は事務局に一任することとする。

7月21日に港湾空港技術研究所の一般公開があり、施設のほぼ全体が見学の対象となっているが、これまでに見学に行かれた方はいるか。

私は3～4回あるが、津波の実験などを見ることができる。

事務局（鈴木係長）

港湾空港技術研究所のホームページで見学の受け入れ実績を見ると、メニューもこちらの希望に応じてくれる仕組みとなっているので、案内していただける施設をあらかじめ皆さんに提案し、希望を伺いたい。

一般的な公開コースは2時間で4施設を見学でき、研究員の方に解説や説明をしていただく内容になっている。

最近では、津波の施設が見どころであり、また、ブルーカーボンについて熱心に研究している研究員の方がいて、温暖化対策の話が聞けるかと思う。

高橋座長

港湾空港技術研究所は10年程前に空港も加わったが、港湾中心の研究施設になっている。施設見学先を港湾空港技術研究所として事務局に進めてもらうことにする。

◆議題 ②環境教育指導者等派遣事業について

[事務局からの説明]

環境教育・環境学習を推進するため、指導者等とテーマを増やす方策について、ご意見を伺いたい。

高橋座長

今の説明に関して、ご意見やご質問があればお願いしたい。

資料2-1 図1を見ると平成29年度は派遣回数が減っている。「市民協働モデル事業学区の自然を再発見、小学校向けの環境体験事業」も似たような形で学校への体験学習を行っている。

この数を入れるかどうかは別として、小学生を対象にした同じような出前授業があったことを注意書きとして入れると良いのではないか。

事務局（松尾課長）

確かに派遣実績が減っている一つの要因になっているかと思う。本日、お配りした「よこすか環境教室事例集」には、単純に減ってきているのではなく、そのような状況があることを記載したい。

高橋座長

池上小学校では、ここ数年は環境教育指導者等派遣事業「よこすか環境教室」で上流体験に行っていたが、今年度は「学区の自然を再発見、小学校向けの環境体験事業」で平作川に行ったので、同じような授業を行ったことが分かるように記載していただきたい。

事務局（松尾課長）

これまでの環境教育・環境学習は「環境教育指導者等派遣事業」が中心だったが、例えば、環境体験事業でも「猿島自然観察会」のほかに平成27年度から「観音崎ウォークラリー」を始めるなど学校側の選択肢が増えてきていることを考えると「環境教育指導者等派遣事業」は減少しているものの、全体として見ると必ずしも減っているという訳ではない。

野崎構成員

小学校が学区の中で活動している団体や個人に直接声を掛けて、環境学習を行っていることが案外あるかと思う。

私は大楠地域だが、地域の自然環境活動団体が大楠小学校のサマースクールで自然環境の観察会に参加したり、生活環境面でも地域の方が学校に入りお手伝いをしているが、その実績の情報が学校からこちらに集まってきていないと思うので、情報が集められると数値が上がるのではないか。

浦賀地区でも行っているのではないか。

高橋座長

鷹取山なども鷹取山自然観察会が地元で活動を行っているようで、現在の制度だと「環境教育指導者」は個人になっているが、個人だけではなく団体に登録することがあっても良いと思う。

例えば、「おおくすエコミュージアム」という団体に登録するなどの選択肢があっても良いかと思う。

事務局（松尾課長）

資料2-1にもあるように、「環境教育指導者等派遣事業」のテーマと指導者を充実することや環境教育指導者を増やすためにはどうしたら良いのか、皆様のご意見も伺いたい。

環境カウンセラーや環境学習リーダーで環境教育指導者には登録していただけない方もいるが、環境カウンセラーや環境リーダーの資格を取るための支援を市で行うことや座長が言われたように団体に登録するという考え方もあると思う。

また、構成員である日産自動車も市内で環境活動されていたり、横須賀市地球温暖化対策地域協議会でも様々な活動を子ども向けに行っているため、こうした企業や団体の活動の場や機会を広げていくことや窓口をワンストップにして環境教育・環境学習のメニューを学校や地域に提供することも考えられるかと思う。

高橋座長

資料にも「事業者（企業）が指導者として登録」とあるが、桐谷副座長いかがか。

桐谷副座長

確認だが、先程座長から指摘があったが、図1を見ると平成27年度から「環境教育指導者等派遣事業」が減ってきているように見えるが、学校での活動自体が低調になっている訳ではなく、他にも選択肢が増える中で、横須賀市の学校での環境教育については色々な広がりを見せているとの捉え方でよろしいか。

事務局（松尾課長）

そのように理解している。

桐谷副座長

それを踏まえた上で、指導者等派遣事業の数が減ってきているので活性化し増やしていきたいとのことで良いか。増やしていきたい「ねらい」はどこにあるのか。

全体として活発化しているのでそれは良いことだと思うが、指導者等派遣事業を増やしていきたい「ねらい」を伺いたい。

事務局（松尾課長）

選択肢が増えてきている中で、学校には一定の活用をしていただいていると思っている。

この事業を始めたときは環境教育・環境学習の場がなかったが、現在のように選択肢が他にもあるのであれば、この事業に捉われる必要はないのではないかという考え方もある一方で、事業を続けていくには指導者として若い人材を養成していくことや企業の方を派遣できないかという考え方もある。

桐谷副座長

指導者等派遣事業の中身の専門性が高く、学校側からすると貴重な機会を得られているのであれば、そこにウェイトを置いて行ってはどうか。

数が減るから良くないのではなく、中身の議論があっても良いのではないか。

事務局（松尾課長）

そのとおりで、テーマを広げ、質を上げていく必要があるかもしれないので、そのためには市で何ができるか考える時期に来ているのではないかとも思っている。

桐谷副座長

先程の座長の質問に対してコメントすると、環境は幅が広いのでその中でコンテンツとして我々事業者側から提供できるものがあれば積極的に行っていきたいと思っているので、要望をいただければ検討できる。

例えば、追浜中学校科学部は水を専門的に調査していて、追浜中学校が昨年弊社に来て意見交換なども行っている。

米田構成員は水の専門家でもあり、良い勉強の機会になるのではないかと思うので、そのようなこともこの枠の中に入れていただいても良いかと思う。

高橋座長

追浜中学校科学部は長年調査を行っているが、クラブ活動のため学校としては経験があるものの個人の経験は浅く、測定方法にしても問題があり、先生が指導できる専門性が無い。

川の水を測定するのも工場排水と同じ測定方法をしていたので、きれいな川の水を測定する指導を行った。

高橋正明構成員

環境教育指導者等派遣事業は対象が学校や町内会とあるが、どちらが多いのか。

例えば学校だとすると学校で興味のある環境とは何なのか。

また、環境は幅が広く、自然環境、生物多様性、環境保全、温暖化対策という様々な切り口があり、学校が興味を持っている内容について指導者や企業・団体が指導者として登録すれば希望側と提供側の考えがマッチするのではないか。

今までの実績で学校の希望は何が多かったのかなどの整理が大切で、枠組みを考え、そ

れに対応した指導者の掘り起しや育成が必要だと思う。

事務局（松尾課長）

例えば、指導者の登録をして学習メニューを作っていたとしても、需要がないと活動する機会がない状態になってしまうので、学校がどのようなことに興味があり、どのようなことを希望しているのかについては事務局で調査・検討していきたい。

高橋座長

補足すると、この「よこすか環境教室 事例集」は学校に配られているが、町内会には配られてなく、町内会には人づてで頼まれたり、また、環境教育指導者が自身の地元の小学校、保育園を中心に行っている。

中学校は年に1～2回程度で個人を通じて話があり、それを「よこすか環境教室」としているような状態である。

野崎構成員

各地域をまとめているコミュニティセンターが地域の人を集めて色々な企画をしているが、数年前まではコミュニティセンターから廃棄物の話をしに来てくださいなど話があったものの、今は広報紙を見ても環境関係のことはあまり出ていない。

企画側も環境に関して市民に知ってもらえるよう、各コミュニティセンターがもう少し環境に目を注いでもらうようにできないものか。

高橋座長

これまでにコミュニティセンターから依頼があり、横須賀市地球温暖化対策地域協議会でソーラーランタン作りを行ったことがある。

コミュニティセンターに「よこすか環境教室事例集」を配付しているのか。

事務局（鈴木係長）

コミュニティセンターには配付していない。

高橋座長

配付しても良いのかもしれない。

高橋直人構成員

コミュニティセンターでは非常勤職員がメインで企画を行っているが、非常勤職員は交代が多いので毎年事例集を送るのも良いと思う。

非常勤職員が困っているのは、環境に関する講座を行うときに講師を探す手立てがないということ。事例集を配り、指導者の方がこれだけいることを毎年伝えるのは良いと思う。

市民大学で環境学習を行っている生涯学習センターでは、「まなびかんニュース」を毎月発行しているので、「環境教育指導者登録をしてみませんか」といった記事を環境企画課から依頼して掲載し、広く一般の方から集めるのも良いと思う。

まなびかんでも講師登録を行っているが、環境に関する登録講師が更に環境教育指導者に登録して、活動していくことで、学ぶ機会は広がっていくと思う。

生涯学習課としても学んだことを地域に活かしていくことを推奨している。

資格を持っている方たちを眠らせておくのはもったいないと思うので、生涯学習の分野でも協力できればと思う。

また、昨日、学校の先生のOBの方と話をする機会があったが、学校の現場は忙しく、事例集をもらってもすぐに授業に活用することは難しいが、指導要領のこの単元のこの項目で、授業に活かせるなどと具体的な記述があると助かると話していた。

この会議には先生方もいるが、自ら忙しいとはなかなか言いづらいと思う。

先程、調査をする話があったが、先生は通常業務だけでも大変忙しい状況にあると思うのでご理解いただきたい。

高橋座長

生涯学習センターに十数年、講師登録をしていたが、一度も声が掛からないので数年前に登録を取り消した。

先程、コミュニティセンターの話も出たが、コミュニティセンターにこの事例集を送っても講座を開く計画をしてくれる方が見てくれて開いてくれるかだと思う。

今まで配っていないとすれば配っていただきたいが、コミュニティセンターが来年度の講座の計画を立てるのはいつ頃なのか。

高橋直人構成員

予算の時期にある程度の年間計画を出すので8月～9月辺りだが、実際、すべて計画通りに実施できるかと言うとそうではない。

各行政センターの館長等が講座担当者を指導していると思うので、館長と指導者とのコンタクトがあれば良いと思う。

事務局（松尾課長）

環境教育指導者等派遣事業は約15年行ってきた事業であるが、今後、市民や学校への周知方法や要望への対応など、どのようなものが今の時代にマッチしているか事務局で検討していきたい。

高橋直人構成員

先程、座長から生涯学習センターの講師登録の話があったが、名前と肩書きを登録していただいても、利用者が、講師の顔が見えない中、なかなか声をかけづらいことがあり、また、生涯学習センターの職員も、登録されている方の人柄や専門性をよく分かっていないと推薦しづらいところもある。

実際、ただ単に講師として登録しているだけでは活動につなげることは難しい。

桐谷副座長

例えば、リサイクルの話が聞きたい場合、「環境教育指導者等派遣申請書」に記載して環境企画課に送ると指導者の中から誰が良いかコーディネートしてもらえると考えてよろしいか。

事務局（鈴木係長）

「よこすか環境教室」はあらかじめテーマを提示しているので、そのテーマに沿った申し込みを受ける。

例えば、リサイクルならリサイクルの話ができる指導者に依頼する。

リサイクルの場合、市民部の「出前トーク」や資源循環部の「ごみトーク」などの出前授業もあり、依頼があった際に依頼者と相談しながら行っている。

桐谷副座長

申込者の立場で考えると、講演をお願いしたい時に「防災」と言っても物凄く広く、例えば、「津波」と言っても具体的にどのような話をしていただけるかのイメージが全くないので、先ずはそのような入り方しかできない。

例えば、「このようなことができる」、「見学できる」、「デモンストレーションが見せられる」とあれば、「そこをお願いしたい」、「それは必要ない」など調整ができると中身も良くなり、頼んで良かったという結果になると思う。

コーディネーターが上手く間に入っていただくと一歩踏み出しやすくなる。

高橋座長

事例集のテーマ一覧の内容を見て市に依頼が来て、市から指導者に連絡をし、話を進めていくというのが流れである。

桐谷副座長

資料のテーマ一覧に気付かなかったが、ここまで書いてあれば分かる。

高橋座長

依頼者と指導者が話し合い、実施計画書を作り、これに基づき行っている。

事務局（松尾課長）

学校からはテーマ一覧を見て依頼してくるケースが一番多く、依頼を受けた環境企画課は指導者に連絡を取り、学校と授業の内容について話し合いをさせていただいているが、ざっくりとした依頼が来ることもある。

その場合、環境教育指導者等派遣事業を利用するか、市の職員が行き話をした方が良いのか依頼者と話をさせていただき、例えば、市の事業の内容を聞きたいとのことであれば市の職員が行き話をするが、専門的な話が聞きたいとのことであれば指導者に依頼をするなど依頼者と相談しながら進めている。

高橋座長

「水道」や「ごみ」については、市の部局で話に行く仕組みがあるのか。

事務局（鈴木係長）

「ごみ」は町内会単位で申し込みがあれば、資源循環推進課が出向き話をしている。また、各小学校を回り4年生に授業を行っている。

「水道」も水道局が出前授業を行っている。

高橋座長

学校の先生の意見も伺いたい。橘構成員いかがか。

橘構成員

実績が書いてあるのは有り難い。

「よこすか環境教室 事例集」を作るのは大変だと思うが、大切なことなので続けてもらいたい。

高橋座長

吉田構成員はいかがか。

吉田構成員

学校では新しい学習指導要領で、地域と関わることが大きくクローズアップされていく中で、地域に関する問題を地域の人をお願いすることが多くあり、また、地域の問題を指導者であるプロフェッショナルな方と一緒に解決していくことも一つの方法だと今日改めて感じた。

総合の学習の時間の中で1年間35時間という長いスパンの単元の計画をしていくが、全体としてそれがしっかり出来ているかはなかなか難しい実態である。

このようなプロフェッショナルな方をこの時期にお願いしようと計画の中に取り込めていない実態がある。

「事例集」を改めて読むと色々なことが行われていて、ごみの部分や発展の学習に繋がることを教師側がしっかり把握していかなければいけないと思ったので、改めて校内にも呼びかけていこうと思う。

高橋座長

稲構成員はいかがか。

稲構成員

望洋小学校ではビオトープの授業が今でも続いていて「事例集」にも載っている。

私は総合的な学習研究会にいますが、テーマを見るとそれ以外にも理科や社会で自然やごみの問題で依頼すれば良かったと思う。

まだまだ日々の中で把握できていなく、活用するべきところで活かせてないと思う。

校内でもしっかりと目を通していかない実態であり、周知していくことが必要と思う。

高橋座長

昨年度、鶴久保小学校は「学区の自然を再発見 環境体験授業」行ったのか。

事務局（鈴木係長）

鶴久保小学校では「わくわくエコスクール」を行った。

高橋座長

昨年度は6校、今年度は現在3校での実施か。

事務局（鈴木係長）

そのとおりである。

高橋座長

本日の配付資料に「小学生エコツアー」のチラシがあるが、昨年度と今年度に「市民協働モデル事業 学区の自然を再発見、小学校向けの環境体験事業」を実施した学校の生徒一人ひとりに渡るように配付した。

コースがA、B、Cの3コースあるが、申し込みがあったのはAコースが3名、Bコースが1名だった。

生徒一人ひとりに配られたのか。費用対効果を考えてしまう。

効率的に行うには学校の担当者に送るだけでなく、「届いたか」「皆で参加してください」と市から電話で連絡する必要があるのか。

橋構成員

私は飛びついたが、それ程少なかったのかという思いである。

高橋正明構成員

このチラシを見ると学校の先生向けに感じる。

子どもが見て面白そうだと思うには字が多すぎ、子どもが飛びつく内容と大人が見る内容を工夫するともう少し子どもが参加するのではないか。

高橋座長

「自分で行こう」という子どもはいないと思う。

「親に相談しないと分からない」と言って子どもは自分で判断しない。

高橋正明構成員

面白そうな内容だと思う工夫ができると良いのではないか。

字が多いと自分で判断出来ず親に相談する流れになるのではないか。

米田構成員

今まで実施後のアンケートは取っているのか。

事務局（松尾課長）

指導者派遣事業を行った際には学校側と指導者側の両方から感想をもらっている。

米田構成員

「いいね」や「☆☆☆」などで評価したらどうか。

事務局（松尾課長）

それは分かりやすいかと思う。

高橋座長

例えば、今年の4年生が行った場合、翌年の4年生に先生が引き継いでくれる学校もある。

望洋小学校のビオトープはそのようにしてずっと続いていて、池上小学校なども続いている。何年か経ってまた依頼がくる場合もある。また、先生の異動先の学校から依頼がくることもある。

米田構成員

その先生は良さが理解出来ていると思う。それを皆に分かってもらうのは難しい。

高橋座長

堀井真構成員はいかがか。

堀井真構成員

昨年度まで教職の現場にいたときに派遣一覧を目にしたことはあったので、実際、依頼したことがあり、その時に感じたのは依頼して自分の授業と一致したものができのうかとの不安があったが、その時は内容について相談できたことが良かった。

市の事業だと融通が利くのかどうか不安だったので、相談が出来ることや間口が広い部分を現場の先生に周知するのが大切であり、このチラシも楽しそうな内容だがもっと楽しそうな部分に分かることが大切だと感じた。

高橋座長

どちらの学校だったのか。

堀井真構成員

随分前だが馬堀小学校にいた時に高橋座長に来ていただき、「東京湾の水はきれいか」との話をしていただいた。

高橋座長

堀井靖世構成員はいかがか。

堀井靖世構成員

私は小学校3年生の子どもがいるが、小学校からたくさんのチラシが配付される。特に夏休み前は大量のイベント等のチラシが配られ、その中から取捨選択して参加するかどうか決めている。

環境学習は素晴らしいことだが、どのようにアピールするかが大切である。例えば、近代歴史遺産活用事業推進協議会では、年2回のツアーを毎年行っており、80名募集のところ、毎回倍近い応募がある、と聞いた。何か訴求するものがあれば人を呼ばなくはない。やり方次第だと思う。

どのようにすれば良いかの提案は難しいが、このチラシを見たときに何をやるかがすぐに伝わってこない。中を見れば分かるが、たくさんある選択肢の中で小学生が興味をそそるようなPRの仕方を考えていけないと感じた。

高橋座長

今回の数少ない申し込みはどのような形で来ているのか。

事務局（相澤）

ファックスで2件、Eメールで2件となっている。

高橋座長

色々なご意見があったが、今日のご意見を今後事務局で指導者等派遣事業に活かしてもらいたい。議題は以上だが皆さんから何かあるか。

高橋直人構成員

馬堀自然教育園が50周年を迎えるので、たくさんの方に来ていただきたい。

◆その他 ①市民協働モデル事業「学区の自然を大発見、小学校向けの環境体験事業」について

[事務局からの説明]

今年度の募集状況等について報告する。

高橋座長

今の説明に関してご意見やご質問はあるか。
この市民協働モデル事業は3年間実施するのか。

事務局（相澤）

3年間実施する。

高橋座長

昨年度は6校だが、今年度は3校と半分に減っているが、事務局はどのように判断しているのか。

事務局（相澤）

1年間で5校の実施を目標にしているが、結果として今年度は3校の応募だったので、夏休み明けの実施に向けて再度募集を始めたところである。

高橋座長

先月、望洋小学校で「学区の自然を再発見、小学校向けの環境体験事業」を行うとのことで手伝いに行ってきた。

学校の裏山の公園へ行く途中、歩道は通らず普段は通れない学校と歩道間のフェンスの脇の草道を歩いた。

講師であるNPO法人三浦半島生物多様性保全の天白さんが事前に現地で蛇(ヒバカリ)を捕獲し、子どもたちに見せ、子どもたちは皆触っていた。

崖登りをして帰りは滑り下り、泥んこになって帰ってきたが、行く途中で、草笛や竹笛

を作るなど、学校のすぐそばで自然がたくさんあることを学んだ。

市街地の学校で知られていない自然を発見して欲しいとのねらいがあると天白さんが話していた。

現在は3校だが抽選するくらい希望があると良いと思う。

◆その他 事務局から事務連絡

事務局（大場主任）

1点目は、本日の議題について追加のご意見があれば、7月26日（木）までに事務局へご連絡をいただきたい。

2点目は、9月発行予定の「よこすかECO通信第30号」について、環境学習講座のお知らせ欄に掲載の情報があれば事務局へご連絡をいただきたい。

高橋座長

以上をもって第26回環境教育・環境学習ネットワーク会議を終了する。